

第8章 文化財保護

第1節 文化財の指定と調査・保護

第2節 東北歴史博物館

第3節 宮城県多賀城跡調査研究所

第1節 文化財の指定と調査・保護

1 指定文化財

県内の国及び県指定等の文化財は、次のとおりである。

第8-1表 新指定等文化財

区分	名称	所在地	所有者又は代表者	指定等年月日
国指定名勝	おくのほそ道の風景地(武隈の松)	岩沼市二木	岩沼市	H26.3.18
県指定文化財(古文書)	多賀城跡出土木簡	多賀城市高崎	宮城県	H26.2.25
県指定文化財(古文書)	多賀城跡出土漆紙文書	多賀城市高崎	宮城県	H26.2.25

第8-2表 文化財指定等件数(平成25年度末)

区分	種別	国指定	県指定	計	
有形文化財	建造物	20(3)	36	56	
	美術	絵画	2	14	16
		彫刻	8	27	35
	工芸品	工芸品	11	22	33
		書跡・典籍	5(2)	20	25
		古文書・古碑	1	2	3
	考古資料	8	9	17	
歴史資料	3(1)	12	15		
無形文化財	工芸技術	1	2	3	
	その他		1	1	
民俗文化財	有形民俗文化財	1	4	5	
	無形民俗文化財	風俗慣習	4	9	13
		民俗芸能	3	33	36
文化財	風俗慣習・民俗芸能		2	2	
記念物	史跡	34(1)	15	49	
	史跡・名勝	1		1	
	名勝	5(1)	2	7	
	天然記念物	28(1)	31	59	
合計		134(9)	239	373	
・選定文化財		(国選定)	(県選定)		
保存技術	選定保存技術	1		1	
・記録作成等の措置を講ずべき文化財		(国選択)	(県選択)		
無形民俗文化財	風俗慣習	4		4	
	民俗芸能	4		4	
・登録文化財		(国登録)			
有形文化財	建造物	84			
	美術工芸品	1			

注1：国指定の有形文化財(重要文化財)の中で特に価値の高いものを国宝、国指定の記念物(史跡・名勝・天然記念物)の中で特に重要なものを特別史跡・特別名勝・特別記念物に指定している。

注2：()内は、国宝・特別史跡・特別天然記念物の件数を内数で示している。

2 文化財の調査・保護

(1) 埋蔵文化財の保護及び発掘調査等

ア 保護体制の整備

県の埋蔵文化財保護体制を充実させるため、以下の会議により調整を図った。

(ア) 東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議

○文化庁主催

○平成25年6月11日・10月4日・12月5日・3月13日(計4回)

○場 所 宮城県・岩手県・福島県

○参加者 文化庁・宮城復興局・岩手復興局・福島復興局

宮城県・福島県・岩手県・仙台市

兵庫県・神戸市・奈良文化財研究所

(イ) 市町村文化財担当者会議

○平成25年6月7日

○場 所 東北歴史博物館

○参加者 35市町村文化財担当者

(ウ) 復興事業に伴う発掘調査にかかる連絡調整会議

○平成26年2月7日

○場 所 東北歴史博物館

○参加者 35市町村文化財担当者・復興事業担当者

文化庁・宮城復興局

イ 文化財保護管理指導事業

文化財保護地区指導員を県下市町村に各1人(仙台市4人、大崎市7人、加美町3人、栗原市10人、登米市9人、気仙沼市3人、石巻市7人、南三陸町2人)委嘱し、国指定の重要文化財(建造物)、史跡、名勝、天然記念物及び主たる埋蔵文化財包蔵地についてパトロールを実施したほか、文化財保護地区指導員ほかを対象とした以下の会議及び研修会を開催した。この事業は昭和49年度から国庫補助事業として実施しているものである。

(ア) 文化財保護地区指導員会議

○平成25年4月25日

○場 所 東北歴史博物館

○参加者 各市町村担当者及び文化財保護地区指導員

(イ) 市町村文化財担当者・文化財保護地区指導員研修講座

○月 日 平成25年10月29日

○会 場 大崎市岩出山公民館、旧有備館及び庭園

○研修内容 「旧有備館及び庭園の発掘調査及び復旧工事について」

講師 大崎市教育委員会 主査 大谷基

株式会社 文化財保存計画協会

主任研究員 津村泰範 技術員 益田里佳

旧有備館及び庭園の見学

○参加者 各市町村担当者、文化財保護地区指導員、文化財保護委員

ウ 基礎資料の整備

埋蔵文化財関係の基礎資料を整備し、その活用を図るため、遺跡台帳の整備充実に努めた。

エ 発掘調査

(ア) 平成25年度：埋蔵文化財発掘届等の件数

(第8-3表参照)

○調査のための発掘届(法92条第1項) 3件

○土木工事に伴う届(法93条第1項) 1,189件

○土木工事に伴う通知(法94条第1項) 297件

○遺跡発見の届(法96条第1項) 0件

○遺跡発見の通知(法97条第1項) 10件

○教育委員会の発掘調査(法99条第1項) 465件

合計 1,964件

- (イ) 受託事業による調査 (第8-4表参照)
- (ウ) 執行委任事業による調査 (第8-4表参照)
- (エ) 国庫補助事業による詳細分布調査 (県教委が主体もしくは担当した調査) (第8-4表参照)
- (オ) 復興交付金による分布・試掘調査 (第8-4表参照)
- (カ) その他の調査 (第8-4表参照)

第8-3表 埋蔵文化財発掘届等件数

No.	市 町 村 名	92条	93条	94条	96条	97条	99条	計
1	仙 台 市	2	476	33		1	100	612
2	白 石 市		16	5		1	11	33
3	角 田 市		5	5			2	12
4	七ヶ宿 町			1			1	2
5	蔵 王 町		16	1		1	8	26
6	大 河 原 町		4	1			1	6
7	村 田 町		5	3				8
8	柴 田 町		4	2			2	8
9	川 崎 町		2	2			1	5
10	丸 森 町		8	3			6	17
11	塩 竈 市		4	2				8
12	名 取 市		108	8			47	163
13	亘 理 町		21	2			3	26
14	山 元 町		21	4		5	14	44
15	岩 沼 市	1	14	9			10	34
16	松 島 町		16	4			9	29
17	多 賀 城 市		117	21			31	169
18	七ヶ浜 町		5	4				9
19	利 府 町		12	5			4	21
20	大 和 町		14	4			10	28
21	大 郷 町			1				1
22	富 谷 町					2	1	3
23	大 衡 村		3				2	5
24	大 崎 市		58	53			58	169
25	加 美 町		8	4			8	20
26	色 麻 町		4	1			2	7
27	涌 谷 町		8	4			2	14
28	美 里 町		9	5			2	16
29	栗 原 市		70	50			38	158
30	登 米 市		23	17			11	51
31	石 巻 市		67	17			11	95
32	東 松 島 市		18	9			20	47
33	女 川 町		3	9			9	21
34	気 仙 沼 市		45	7			36	88
35	南 三 陸 町		5	1			3	9
	合計	3	1,189	297		10	465	1,964

平成25年度発掘調査遺跡一覧

受託契約による調査

No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構
1	三陸沿岸道路建設(復興) (多賀城IC八幡地区)	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	山王遺跡 市川橋遺跡	多賀城市	確認調査 本発掘調査	13,405 1,500	4月8日～3月27日	調査担当 古代: 道路跡・掘立柱建物跡・竪穴住居跡・井戸跡・材木崩跡など, 土師器・須恵器・石製品・木製品など
2	JR常磐線移設(復興)	東日本鉄道株式会社	熊の作遺跡 狐塚遺跡 向山遺跡 戸花山遺跡 犬塚遺跡 雷神遺跡 山ノ上遺跡 新中永窪遺跡	山元町	本発掘調査	3,600 750 1,000 850 2,700 4,800 800 2,900	4月15日～3月14日	調査担当 弥生: 遺物包含層, 弥生土器 古代: 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・窯跡・柱列跡・溝跡・土坑など, 土師器・須恵器・石製品・鉄製品・木製品など
3	国道4号築館バイパス建設	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	御駒堂遺跡 堂の沢遺跡	栗原市	本発掘調査 確認調査	550 1,800	11月11日～11月28日 1月21日～2月7日	調査担当 古代: 竪穴住居跡など, 土師器など

執行委任による調査

No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構
1	県営ほ場整備事業 田尻西部地区	宮城県 (北部地方振興事務所)	団子山西遺跡	大崎市	確認調査 本発掘調査	3,639	5月27日～11月8日	調査担当 縄文: 遺物包含層, 縄文土器 古代: 道路跡・掘立柱建物跡・井戸跡・河川跡など, 土師器・須恵器など
2	県道改良事業 泉塩釜線(復興)	宮城県 (仙台土木事務所)	山王遺跡	多賀城市	確認調査	7,000	7月6日～12月8日	調査担当 古代: 区画溝・井戸跡・畑跡など, 土師器・須恵器・木製品など 近世: 溝跡・土坑など, 漆器など

国庫補助による調査

No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構
1	河川災害復旧事業	宮城県 (仙台土木事務所)	貞山堀	多賀城市	確認調査	54	8月20日～8月28日	調査担当 近代: 堤防跡

復興交付金による調査

No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構
1	被災土地区画整理事業 (復興)	多賀城市	八幡沖遺跡	多賀城市	試掘	2,400	4月15日～5月30日	調査担当 古代: 掘立柱建物跡・土坑・溝跡・遺物包含層, 土師器など
2	防災集団移転促進事業 (復興)	石巻市	浪田遺跡	石巻市	試掘	686	6月12日～6月21日	調査担当 遺構・遺物なし
3	住宅モデル事業(復興)	女川町	十二神遺跡	女川町	試掘	600	7月8日～7月17日	調査担当 遺構なし, 縄文土器など
4	防災集団移転促進事業 (復興)	女川町	竹の浦遺跡	女川町	試掘	230	9月9日～9月19日	調査担当 遺構なし, 縄文土器など
5	漁業集落防災機能強化 事業(復興)	女川町	大石原遺跡	女川町	試掘	450	9月20日～10月4日	調査担当 遺構なし, 縄文土器, 土師器など
6	防災集団移転促進事業 (復興)	女川町	野々浜B遺跡	女川町	試掘	590	1月14日～1月24日	調査担当 遺構なし, 縄文土器など
7	被災土地区画整理事業 (復興)	女川町	宮ヶ崎遺跡	女川町	試掘	253	1月14日～17日	調査担当 遺構・遺物なし
8	防災集団移転促進事業 (復興)	女川町	高白浜遺跡	女川町	試掘	608	2月3日～2月14日	調査担当 遺構・遺物なし
9	被災土地区画整理事業 (復興)	女川町	内山遺跡	女川町	試掘	968	2月17日～2月27日	調査担当 縄文: 土坑, ピット, 縄文土器など
10	防災集団移転促進事業 (復興)	女川町	荒井田貝塚	女川町	試掘	660	3月3日～3月19日	調査担当 縄文: 竪穴住居跡, 土坑, ピットなど, 縄文土器, 石器など

その他の調査（市町村協力）

No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構
1	防災集団移転促進事業 (復興)	気仙沼市	波怒兼館遺跡	気仙沼市	本発掘調査	6,000	4月8日～6月27日	縄文時代：遺物包含層、貝層、ピットなど、縄文土器、石器、骨角製品、自然遺物（貝・鹿角など）など
2	防災集団移転促進事業 (復興)	石巻市	中沢遺跡	石巻市	本発掘調査	8,300	4月8日～10月11日	縄文時代：遺物包含層、住居跡、掘立柱建物跡など、縄文土器、石器、石製品、土製品など 古代：住居跡など、土師器、須恵器など
3	防災集団移転促進事業 (復興)	南三陸町	新井田館跡	南三陸町	本発掘調査	17,300	4月8日～3月11日	中世：掘立柱建物跡、堀跡、土壘など、陶磁器、古銭、石製品など
4	宅地造成	個人	亀岡遺跡	大衡村	確認調査	112	4月8日	調査協力 遺構・遺物なし
5	県道改良	宮城県 (大河原土木事務所)	堤北遺跡ほか	大河原町	確認調査	290	6月18日～6月21日	調査協力 遺構なし、土師器など
6	個人住宅（復興）	個人	化粧坂遺跡	美里町	確認調査	116	6月20日	調査協力 遺構・遺物なし
7	防災集団移転促進事業 (復興)	気仙沼市	台の下館跡 台の下貝塚	気仙沼市	本発掘調査	6,800	7月1日～3月28日	縄文：竪穴住居跡、土坑墓、土坑、遺物包含層、貝層など、縄文土器、石器など
8	連絡橋建設	柴田町	船岡館跡	柴田町	確認調査	18	7月23日～7月24日	調査協力 遺構・遺物なし
9	メガソーラー建設	企業	座府C遺跡	大衡村	確認調査	399	9月9日～9月11日	調査協力 遺構・遺物なし
10	防火水槽建設	川崎町	大向遺跡	川崎町	確認調査	58	9月24日～9月25日	調査協力 縄文：ピット、縄文土器など
11	裁判所建替	仙台地方裁判所	寺池館跡	登米市	本発掘調査	785	10月1日～11月29日	調査協力 中世：ピット、溝跡など
12	個人住宅（復興）	個人	高谷遺跡	気仙沼市	本発掘調査	805	10月15日～11月21日	調査協力 縄文：土坑、ピットなど、縄文土器、石器など
13	福祉施設増築	七ヶ宿町	矢立遺跡	七ヶ宿町	確認調査	742	10月15日～10月22日	調査協力 遺構・遺物なし
14	個人住宅（復興）	個人	猿喰東館跡	気仙沼市	本発掘調査	2,062	11月18日～3月28日	調査協力 中世：掘立柱建物跡、堀跡など、陶磁器、石製品
15	ほ場整備（復興）	宮城県 (仙台地方振興事務所)	大橋貝塚ほか	亘理町	確認調査	867	10月28日～12月26日	調査協力 遺構・遺物なし
16	町営住宅	女川町	浦宿C遺跡	女川町	確認調査	446	11月18日～11月21日	調査協力 遺構・遺物なし
17	堤防復旧（復興）	宮城県 (仙台地方振興事務所)	寺崎貝塚	塩竈市	確認調査	8	11月20日	調査協力 遺構なし、古代：製塩土器
18	防災集団移転促進事業 (復興)	気仙沼市	堀合館跡	気仙沼市	確認調査	504	12月9日～12月16日	調査協力 遺構・遺物なし
19	個人住宅	個人	館前貝塚	柴田町	確認調査	6	12月25日	調査協力 遺物包含層、貝層、縄文土器、石器など
20	防災集団移転促進事業 (復興)	気仙沼市	野々下遺跡	気仙沼市	確認調査	333	1月27日～2月4日	調査協力 遺構なし、縄文土器
21	個人住宅	個人	西館館跡	柴田町	確認調査	36	3月4日	調査協力 遺構・遺物なし
22	県道改良	宮城県 (大河原土木事務所)	入大遺跡	丸森町	確認調査	270	3月11日～3月13日	調査協力 縄文：遺物包含層、縄文土器・石器など
23	堤防復旧（復興）	宮城県 (仙台土木事務所)	朴島北貝塚	塩竈市	確認調査	21	3月13日	調査協力 遺構なし、古代：製塩土器

オ 報告書の刊行

刊行年月日	報告書名
2014 (平成26年3月)	宮城県文化財調査報告書第233集 「東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告Ⅰ」
2014 (平成26年3月)	宮城県文化財調査報告書第234集 「北小松遺跡―田尻西部地区ほ場整備に係る 平成21年度発掘調査報告―」

(2) 文化財の保護

ア 史跡名勝天然記念物に対する現状変更件数については、次表のとおりである。(第8-5表参照)

イ 銃砲刀剣類の審査と登録

登録審査会を6回開催し、美術的価値のある銃砲刀剣類の登録を行った。(第8-6表参照)

ウ 第55回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

平成25年10月27日(日)に青森県八戸市を会場に開催され、本県から1団体(長下田神楽(登米市))が出演した。

第8-5表 史跡・名勝等の現状変更件数

種 別	名 称	年 度									
		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
特 別 名 勝	松 島	118	88	88	139	135	198	155	235	369	262
特 別 史 跡	多賀城跡附寺跡	9	9	10	18	11	8	13	6	4	4
そ の 他		35	42	18	38	31	30	22	41	46	21
計		162	139	116	195	177	236	193	281	419	287

第8-6表 銃砲刀剣類の登録件数

種 類	た ち	刀	わきざし	短 刀	剣	や り	なぎなた	その他	火なわ式銃砲	火打石式銃砲	管打式銃砲	計
件 数	4	66	84	27	1	7	3	0	13	0	2	207

3 文化財保護事業に対する助成等(震災関係を除く。)

(1) 国庫補助事業

本年度国庫補助事業として実施したものは次のとおりである。

第8-7表 平成25年度国庫補助事業 (単位:千円)

事 業 名	事 業 者	総事業費	内 訳			
			国庫補助金	県補助金	市町村費	所有者負担金等
瑞巖寺本堂ほか7棟 建造物保存修理	瑞巖寺	220,000	132,000	17,775	5,000	65,225
鹽竈神社 建造物保存修理	鹽竈神社	110,000	60,500	12,375	5,000	32,125
東照宮 建造物環境保全	東照宮	5,847	3,215	-	-	2,632
仙台城跡 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備	仙台市	7,664	3,832	-	-	3,832
苦竹イチョウ 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備	仙台市	2,886	1,443	-	-	1,443
多賀城跡附寺跡 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備	宮城県	7,548	3,774	3,774	-	-
市内遺跡発掘調査等	仙台市	12,160	6,080	-	6,080	-
市内遺跡発掘調査等	多賀城市	12,974	6,487	-	6,487	-
市内遺跡発掘調査等	大崎市	5,100	2,550	-	2,550	-
市内遺跡発掘調査等	東松島市	2,320	1,160	-	1,160	-
市内遺跡発掘調査等	角田市	2,000	1,000	-	1,000	-
市内遺跡発掘調査等	白石市	4,000	2,000	-	2,000	-
市内遺跡発掘調査等	名取市	1,948	974	-	974	-
市内遺跡発掘調査等	気仙沼市	458	229	-	229	-
町内遺跡発掘調査等	亘理町	2,200	1,100	-	1,100	-
町内遺跡発掘調査等	加美町	2,000	1,000	-	1,000	-
市内遺跡埋蔵文化財公開活用	多賀城市	3,319	1,343	-	1,343	-
市内遺跡埋蔵文化財公開活用	仙台市	7,064	3,532	-	3,532	-
市内遺跡埋蔵文化財公開活用	東松島市	3,500	1,750	-	1,750	-
多賀城跡附寺跡指定文化財管理(国有文化財管理)	多賀城市	208	166	-	166	-
第60回日本伝統工芸展仙台展	日本伝統工芸品台展実行委員会	3,148	1,496	-	-	1,652
選定保存技術(石盤葺)伝承	佐々木信平	1,127	1,106	-	-	21
秋保の田植踊民俗文化財調査	仙台市	2,708	1,354	-	-	1,354
多賀城跡附寺跡買上げ(直接買上げ)	多賀城市	208,000	200,000	8,000	47,000	-
伊治城跡買上げ(直接買上げ)	栗原市	40,255	32,204	-	8,051	-
仙台郡山官衙遺跡群買上げ(直接買上げ)	仙台市	85,113	68,090	-	17,023	-

陸奥国分寺跡群買上げ（先行取得償還）	仙台市	739,815	591,846	-	147,969	-
仙台郡山官衙遺跡群買上げ（先行取得償還）	仙台市	68,018	54,413	-	13,605	-
特別天然記念物カモシカ食害対策	宮城県	6,176	4,080	2,096	-	-
県内遺跡発掘調査等	宮城県	12,702	6,351	6,351	-	-
指定文化財管理	宮城県	4,656	2,328	2,328	-	-

(2) 特別天然記念物カモシカ保護対策事業

南奥羽山系カモシカ保護地域におけるカモシカの生息動向・生息環境・食害発生状況などのカモシカ保護対策に関する調査を実施した。

(3) 県費補助事業

本年度県費補助事業として実施したものは、次のとおりである。

第8-8表

平成25年度県費補助事業

(単位：千円)

補助事業名	補助金交付先	補助金額	備考
建造物保存修理助成	諏訪神社 防災設備	792	補助率 50%
無形文化財・無形民俗文化財等保存事業補助	無形文化財保持者及び保持団体 新田柳心館 他 2個人	420	補助率 定額 (140千円)
	無形民俗文化財保存団体 湯元田植踊保存会 他 46団体	1,380	補助率 定額 (30千円)

4 災害復旧事業に対する助成等（震災関係）

(1) 国庫補助事業

国庫補助事業として実施したものは次のとおりである。

第8-9表

平成25年度災害復旧補助事業

(単位：千円)

事業名	事業者	総事業費	内 訳				
			国庫補助金	県補助金	震災復興基金	市町村費	所有者負担金等
東照宮附石灯笼 建造物環境保全	東照宮	58,000	47,846	2,110	1,319	1,087	5,438
木造不動明王坐像 美術工芸品保存修理	大徳寺	13,343	11,341	500	186	751	565
洞口家住宅主屋他3棟 建造物保存修理	個人	3,960	3,366	148	7	415	31
仙台城跡 史跡等登録記念物歴史の道	仙台市	395,330	271,228	-	-	199,380	-
旧有壁宿本陣史跡奈土登録記念物歴史の道	個人	20,187	17,158	757	284	1,135	1,136

(2) 県費補助事業

県費補助事業として実施したものは、次のとおりである。

第8-10表

平成25年度災害復旧補助事業

(単位：千円)

事業名	事業者	総事業費	県補助金	震災復興基金	市町村費	所有者負担金等
祇劫寺本堂 保存修理	祇劫寺	18,289	9,144	1,143	4,572	3,429
木造阿弥陀如来坐像 保存修理	安国寺	3,218	1,609	201	805	604
持福院観音堂 保存修理	陽山寺	9,704	4,851	606	2,426	1,820
小針薬師堂薬師如来坐像 保存修理	高蔵寺	229	114	14	58	42
善応寺開山堂 保存修理	善応寺	9,765	-	1,338	4,410	4,017
円通院本堂大悲閣 保存修理	円通院	10,005	-	1,251	5,000	3,754
天雄寺観音堂 保存修理	天雄寺	8,792	-	1,286	3,646	3,860
木造不動明王像 保存修理	滝不動神社	2,974	-	223	2,082	669
上沼八幡神社随神像 保存修理	八幡神社	2,918	-	219	2,042	657
洞水東初橋像 保存修理	瑞巖寺	447	-	55	223	166
伊達家歴代藩主位牌 保存修理	瑞巖寺	443	-	56	221	168
大條氏御廟 保存修理	個人	872	-	217	0	155
茂庭家松山当主及び妻の墓域 保存修理	幡守会	1,000	-	125	500	375

5 その他

(1) 宮城県地域文化遺産復興プロジェクト

東日本大震災により被災した無形の文化遺産等に対して、活動基盤の再構築を促し、文化遺産を活かして復興に資するとともに、その成果を多様な形で還元するため、記録作成、普及啓発、後継者育成等の事業を実施した。

事業期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日

実施主体：宮城県地域文化遺産復興プロジェクト実行委員会
事業額：43,024,374円(平成25年度)

事業内容

事業1：地域の文化遺産記録作成、調査研究事業

①地域文化遺産記録作成事業

- ②地域の文化遺産調査事業
- 事業2： 地域の文化遺産普及啓発事業
- 事業3： 地域の文化遺産継承事業
 - ①無形の文化遺産伝承活性化事業
 - ②地域文化遺産復興基盤整備事業
 - ③がんばれ東北「将棋文化を活用した地域コミュニティ再生」事業
- 事業4： 地域の文化遺産情報発信事業
 - ①文化遺産ガイドブック作成事業
 - ②地域伝統文化パンフレット(石巻地区)作成事業
 - ③調査成果普及啓発事業

石巻文化センターの収蔵資料・毛利コレクション等
東松島市埋蔵文化財収蔵庫の資料等 数千点以上
石巻市唐桑漁村センター民俗資料・生物標本等 約400点

(2) 文化財レスキュー事業

東日本大震災により被災した文化財等（絵画、彫刻、古文書、考古資料など）を緊急に保全するとともに、貴重な文化財の廃棄・散逸を防止するため、平成23年4月に「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）」（実施主体：東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（事務局：東京文化財研究所））が立ち上げられ、行政機関や研究機関、学会などの連携・協力の下に、各地の多数の被災文化財等を救出して応急処置を施し、博物館などで一時保管が行なわれた。その後、10月には宮城県教育委員会、東北歴史博物館などが中心となって「宮城県被災文化財等保全連絡会議」を設置し、救援委員会とも連携・協力してレスキュー活動を進め、被災文化財の保護・保全に努めてきた。

○文化財レスキュー事業実績（平成25年3月現在）
64箇所、約24,000件

(3) 文化財ドクター派遣事業

被災した建造物の状況調査や応急措置及び復旧に向けた技術的支援等を行うため、文化庁と財団法人日本建築学会が連携・協力し、現地に調査員（文化財ドクター）を派遣するもので、県では関係市町村と連絡調整を図り、この事業の下で被災建造物の復旧支援を行った。

○県教委経由で要請・対応した歴史的建造物
2件（未指定未登録 2）

(4) 被災ミュージアム再興事業

東日本大震災により被災した歴史博物館・美術館等が保有する、または寄託を受けた資料の修理、整理・データベース化、収蔵施設の整備や環境保全、展示公開等をおこない、博物館機能の再興を図るもの。文化庁の補助事業で、平成24年度から5ヶ年の計画で進められている。事業費の1/2が国庫補助金、残額は震災復興特別交付金でまかなわれる。本県では、文化庁の事業採択を受け、平成24年度から本事業に取り組んでいる。

事業期間 平成24年7月1日～平成28年
事業額 339,745,504円（平成25年度）

事業概要 第8-11表

対象ミュージアム	事業内容	事業費
石巻文化センター	資料保存修復・再整理・仮保管	73,494,192
石ノ森漫画館	資料データベース化	5,897,347
気仙沼市教育委員会	資料整理データベース化・収蔵環境整備	4,203,000
リアスアーク美術館	資料修復	5,397,290
志津川自然環境活用センター	データベース復旧・収蔵展示復旧	3,916,605
宮城県美術館	整理・収蔵庫整備・環境整備	4,741,216
仙台市博物館	修復・再整理・収蔵環境調査・展示	31,985,021
仙台市教育委員会	修復・収蔵庫修繕・活用	3,681,848
東北学院大学博物館	レスキュー展示	6,489,200
福島美術館	再配架	5,767,493
東北歴史博物館	修理・再整理・保全・保管・再配架・関連展示	35,276,119
多賀城市埋蔵文化財センター	修理	13,250,000
白石市博物館建設準備室	修理・データベース・保管・展示	10,861,735
奥松島縄文村歴史資料館	修復復元・データベース	16,126,000
村田町歴史みらい館	データベース	52,525,000
亘理町立郷土資料館	資料整理	5,160,125
岩沼市ふるさと資料室	修理・データベース・保管施設設置	49,530,343
涌谷町立史料館	資料保全・収蔵施設設置	3,328,801
角田市郷土資料館	収蔵施設整備	5,094,600
大崎市松山ふるさと歴史館	修理	4,500,000

第2節 東北歴史博物館

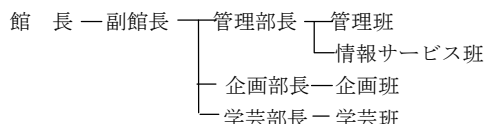
1 概要

東北歴史博物館は、宮城の地を拠点に東北全体の歴史及び文化を総合的にとらえ、その特色を世界に発信することを目的とした人文系博物館であり、誰もが気軽に学ぶことができる施設である。

企画展示、教育普及、調査研究及び歴史資料収集管理などの主要事業を積極的に行なった。

2 組織と予算

(1) 組織



(2) 予算

(決算)

項目	金額(千円)
管理経費	219,321
企画展示費	10,269
教育普及費	1,008
調査研究費	1,005
資料管理費	3,126
合計	234,729

3 事業

(1) 企画展示事業

ア 常設展示

総合展示室において、約3万年前の後期旧石器時代から1965(昭和40)年頃までの東北地方全体の歴史及び文化について、庶民の視点を重視しながらそれぞれの時代を特色づけるテーマを取り上げた課題展示を行っている。重要文化財を含む実物資料約1,400点の展示及び当時の様子を復元したジオラマ、イラストや地図・写真を使ったパネル、レーザーディスク等の映像装置、解説文パネルを適宜配置してわかりやすい展示を目指している。

テーマ展示室において、展示室1で「宮城の瓦」「修復された被災文化財—中ノ内A・B遺跡の縄文土器—」「杉山コレクション—埴輪—」を、展示室2で「杉山コレクション—アイヌ民族資料・刀装具—」「柄鏡の美」を展示した。また、展示室3では「仙台の近世絵画—多彩な近世絵画—」をはじめ9回の展示替えを行なった。

イ 特別展示

・特別展「美しき東北の街並み

—鳥のまなざし・吉田初三郎の世界—

会期：平成25年4月27日～6月16日(45日間)

関連企画：

a, 展示解説 全4回

観覧者数：7,993人

・特別展「東北大学総合学術博物館のすべて13

考古学からの挑戦

～東北大学考古学研究の軌跡～

会期：平成25年7月13日～9月8日(50日間)

関連企画：

a, 記念講演会

第1回

「東北大学と考古学

松本彦七郎・長谷部言人・山内清男・喜田貞吉

・伊東信雄・芹沢長介をめぐって」

講師 元弘前大学教授 藤沼 邦彦 氏

期日 平成25年7月21日

第2回

「東北の古墳文化と古代史」

講師 法政大学名誉教授 伊藤 玄三 氏

期日 平成25年8月4日

第3回

「縄文人骨が語るもの」

講師 東北大学名誉教授 百々 幸雄 氏

期日 平成25年8月25日

b, 展示解説 全6回

観覧者数：7,929人

・東日本大震災復興祈念特別展

「神さま仏さまの復興—被災文化財の修復と継承—」

会期：平成25年11月16日

～平成26年1月13日(45日間)

関連企画：

a, 記念講演会

「文化財としての仏像修理

—横山不動尊の修理と展示を記念して—」

講師 文化庁美術学芸課文化財調査官

川瀬 由照 氏

期日 平成25年12月22日

b, 展示解説 全6回

観覧者数：7,447人

(2) 教育普及事業

ア こども歴史館の運営

利用者数 25,776人(小・中学校・高校の利用数 延べ242校)

体験企画(解説員主催)：

「みんなこいこい！かるたで遊ぼう」

「お正月遊び2014 ～ウマいのだーれ！？～」

イ 図書情報室の運営 利用者数 3,739人

ウ 今野家住宅の運営 利用者数 26,562人

エ 講座等の行事

行事名	回数	参加数(人)	備考
館長講座	11	2,159	テーマ「東北古代史を学ぶ」
博物館講座	25	1,114	古文書、史料講読、民俗芸能、体験考古学講座、オープン講座等
体験教室	12	193	トンボ玉、ミニ屏風、拓本等
多賀城跡巡り	12	151	10回(5月～10月)、番外2回
民話を聞く会	6	233	多賀城民話の会、利府民話の会、秋保語りの会
体験イベント	3	6,283	春・秋・冬の年3回開催

オ 平成25年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

「地域の民話伝承者とともにごどもたちが民話を学ぶ事業」

総参加者数 592名

① 民話にふれよう—いろいろばたでの民話—

期 日 平成25年10月6日

話 者 多賀城民話の会会員

利府民話の会会員

秋保語りの会会員

② 民話を調べて話してみよう

期 日 平成25年10月27日

11月3日・10日・17日・24日

講 師 利府民話の会会員

③ 民話について考えよう—花咲か爺ききくらべ—

期 日 平成26年1月18日

内 容 発表会「こどもが語る民話にふれる」

講演会

「民話を考える—花咲か爺をめぐって—」

カ 広報と刊行物

『東北歴史博物館 平成24年度年報』

『東北歴史博物館研究紀要15』

『展示図録 美しき東北の街並み

—鳥のまなざし・吉田初三郎の世界—』

『展示図録 東北大学総合学術博物館のすべて13

考古学からの挑戦～東北大学考古学研究所の軌跡～』

『展示図録 神さま仏さまの復興

—被災文化財の修復と継承—』

『催事カレンダー(4月～7月, 8月～11月, 12月～3月)』

(3) 調査研究事業

東北地方の歴史・文化に関連する考古資料・民俗資料・文書資料・美術工芸資料及び建造物資料について調査研究を行い、その成果を研究紀要・展示解説書等の刊行物を通じて公表した。

ア 考古資料の調査研究

大和町一里塚遺跡をはじめとする21遺跡の出土木製品1,396点のデータベースを整備し、昨年度整備した多賀城市山王遺跡および同市市川橋遺跡出土木製品1,842点とあわせ、計3,238点を情報システムに登録した。杉山コレクションのペルー資料について、土器類9点・土偶や岩偶6点・機織り用櫛1点・その他木製品残欠6点・天秤2点・スプーン1点・土笛4点・儀礼用石製品4点・武器2点・首飾り類11点・紡錘車27点・玉類24点の写真撮影を行い、これらの内、99点について法量等の基礎データ計測を実施し、研究紀要15において報告を行った。

イ 民俗資料の調査研究

宮城県及び東北地方の民俗資料を調査し、展示に活用できるように、石巻伊藤家の寄贈農具の整理を行うとともに、その他2件の寄贈予定資料について整理作業を行った。

東日本大震災後の民俗調査事業として、「三陸沿岸の漁村と漁業習俗」調査の調査地を中心に、石巻市雄勝町、南三陸町戸倉波谷谷、陸前高田市市長部町、陸前高田市広田町根岬を対象に調査を実施した。

民俗誌作成事業（東北学院大学との連携）として引き続き大崎市三本木新沼地区の調査を実施した。

宮城県地域文化遺産復興プロジェクト事業として、民俗芸能上演会を実施、宮城県地域文化遺産復興プロジェクト実行委員会への協力を行った。

宮城県指定無形文化財正藍染保持者千葉まつ江の映像記録作成事業において、普及啓発用の映像編集について協力した。

ウ 歴史資料の調査研究

新規収集文書（「岡田清一氏収集文書」、「菅家万芳家資料」等）、宮城県図書館移管文書の整理を行った。

館蔵資料の資料保存と公開促進の目的で、「保呂羽村役場文書」のマイクロフィルム化を行った。また、マイクロフィルム資料のうち、我妻家文書（蔵王町）・氏家家文書（栗原市）などのデータベース化を行い、ホームページ上で公開した。

文化財レスキュー事業の一環として、石巻文化センター資料群について保存環境の整備を行った。また、石巻市阿部家資料のうち、津波被害によって当初開披不能であった10点について修理を実施した。また、南三陸町松笠屋敷（ひころの里）資料12点についても、原状のように展示公開できるよう修理を行った。

宮城県の地域文化財に関わる調査・活用事業として、仙台塩釜地区のうち、東園寺（塩竈市）・満勝寺（仙台市）・保春院（仙台市）・善応寺（仙台市）などの調査を行い、資料の写真撮影等を実施した。

エ 美術工芸資料の調査研究

館蔵近世絵画のうち文人画、工芸資料のうち杉山コレクション刀装具について調査研究を進め、その成果の一部をテーマ展示で公開した。城下町を描いた絵図及び名所絵等について宮城県内を中心とした東北地方、さらには関西地方に伝わる資料の調査を行った。

仏教文化及び美術に関する調査研究として、宮城県内、福島県内及び岩手県内の信仰拠点に伝わる資料の調査及びデータの整備を進めた。その成果の一部を本年度の特別展で公開した。

東北の近世絵画に関する調査研究として、城下町を描いた絵図及び名所絵等について宮城県内を中心とした東北地方及び関東地方に伝わる資料の調査を実施し、データの整理を進めた。その成果の一部を今年度のテーマ展示及び特別展示、講座で公開した。

オ 建造物資料の調査研究

古建築の活用に関する調査研究及び管理運営調査として、各所の震災被害状況及び一般開放等に向けた取組や管理運営の現状と課題について、登米市をはじめ三陸町・陸前高田市の各所の現地調査を行った。

気仙大工と建造物についての調査として、発祥地の気仙郡住田町や大船渡・陸前高田等に遺る建造物、また出稼ぎ大工として活躍した一関市藤沢・千厩・宮城県北部に遺る建造物の建築形態・建築年代・意匠の特徴と地域的背景について現地調査した。

カ 保存科学の調査研究

海水浸水資料に対する脱塩法の検討として、被災資料（漁具、農具等、金属・木製品等）の脱塩法について調査した。

仮設収蔵施設における環境調査として、廃校などを仮設収蔵庫として使用した場合の収蔵環境について調査した。

津波により被災した博物館と資料の空気質調査として、当館保管資料の一部を対象に、資料から放散される成分について調査した。被災地と同じ成分がいくつか検出されたが、データが少なく被災由来か否かの結論は得られなかった。今後データを蓄積し、その可能性の有無や対応策について検討することとした。

陶磁器に塗布された口紅の保存に関する試行として、資料表面上に残された口紅、油性インキの保存法を検討し、研究紀要15に掲載した。またその成果を「レディ・ガガ氏サイン入りティーカップ」に応用した。

(4) 資料管理事業

歴史資料・文書資料・民俗資料等を収集し保存及び管理を行い、展示・閲覧・貸出・調査研究などの活用に資する。

ア 実物資料

考古・民俗・文書・美術工芸・建築・歴史の各資料分野にわたって、約7万件を超える資料を収蔵している。

資料の館外貸出は33件736点であった。寄贈資料は、安孫子道子家資料1点、米山村佐々木家文書165点、石巻市街地図2点、馬鋏・千歯抜き・大八車3点、万城目正関係資料43点、高嶋敏明家文書1点であった。

イ 写真資料

収蔵実物資料を撮影したもの等を中心とした写真資料について、フィルムやプリントの形態で約69,000件を収蔵している。今年度の写真資料等の貸出及び再掲載申込は、97件209点であった。

ウ 図書資料

当館が所蔵している図書資料の総数は約100,000冊で、そのうち約8,000冊を図書情報室で開架し、来館者が自由に閲覧できるようにしている。また、収蔵図書資料の目録は、当館ホームページで公開している。

エ 保存処理

県内の遺跡から出土した脆弱な資料について、「埋蔵文化財出土遺物の保存処理」として国庫補助を受け、今年度は、市川橋遺跡、須江瓦山A窯跡、北小松遺跡等出土の建築部材、井戸枠、漆器など木製品52点、須江瓦山A窯跡、西石山原遺跡、山王B遺跡、山畑装飾横穴古墳群等出土の鉄釘、鉄鎌、銭貨、煙管など金属製品157点などについて保存処理を行った。

オ 保存環境管理・調査

資料の保存状況及び収蔵庫・展示室の保存環境に関する調査を行い、資料の保全に努めた。また、収蔵庫内の木質から発生する酸・アルカリなどの成分が資料に与える影響について継続的に調査している。このほか、歴史資料の虫やカビの被害対策として実態を調査し、個別燻蒸消毒を行った。

また、県内外の諸機関から文化財の保存環境についての問い合わせに対応した。

(5) 震災対応活動

ア 被災文化財の救援活動

当館は、2011年度から継続して石巻文化センターの毛利コレクションや文書資料、民俗資料などを中心に数万点を一時保管している。また、「宮城県被災文化財等保全連絡会議」の運営、被災資料の救出、県内一時保管施設の環境調査、被災館にかわっての資料修理、修理支援など様々な活動を実施した。

① 被災資料の保管・収蔵

今年度新たに、角田市福應寺毘沙門堂奉納養蚕信仰絵馬(23,477枚)の寄託を受けた。また亙理町個人宅被災資料(和船1槽、漁具4点)の寄贈を受けた。

② 被災資料の保全処置

他機関で被災した資料について、劣化の進行を抑制する保全処置を行った。

石巻市おしかホエールランド被災資料で仙台市科学館に一時保管中の漁具等民俗資料36点について、脱塩処理、表面処理(さび除去、オリーブ油塗布等)などの保全処置を行った。

岩沼市ふるさと展示室所蔵の被災漆製品(折敷、椀など)20点について、クリーニング、漆塗膜剥落止め、破損部分の接

合などの保全処置を行った。

石巻市寄託の被災紙資料42点について状態調査を行い、クリーニング、カビ除去などの保全処置を行った。

③ 被災資料状態調査・修理支援

被災資料・施設について、修理や今後の方針策定に協力した(釜谷地区大般若巡行資料、東松島市個人宅資料、女川町立女川第一小学校保管資料、東松島市所蔵水損紙資料など)。

④ 環境調査・整備

県内の被災機関の仮収蔵施設等について、現地で収蔵環境等の調査を行った(石巻市旧湊第二小学校ほか)。

⑤ 被災館に代わっての資料修理

石巻市文化センター寄託資料10点、南三陸町ひころの里展示室資料12点について、被災館に代わって修理を実施した。

⑥ 情報公開

ホームページを開設し、当館および後述する宮城県被災文化財等保全連絡会議の活動について公開した。また、第35回文化財保存修復学会のイベントとして、当館の東日本大震災における対応の説明とバックヤードの紹介を行った。さらに、学会本大会では、当館の文化財レスキューへの取り組み等についてポスター発表した。

イ 宮城県被災文化財等保全連絡会議の運営・活動

宮城県被災文化財等保全連絡会議(以下 連絡会議)は、行政や組織の枠組みを超え、文化財レスキュー事業に関係する機関が連携、協働し、被災文化財等の保全管理等を目的として平成23年度10月21日に組織された。連絡会議で当館は代表幹事兼事務局を務めており、調整役として、他館との連携を図りながら、幹事会・全体会の開催、資料保全処置、修理支援、環境調査・整備、研修会開催(被災紙・漆資料の応急処置)、情報公開等の諸活動にあたった。

ウ 宮城県復興支援調査への協力宮城県教育委員会文化財保護課が行う東日本大震災に伴う復興支援調査に対して一年間を通し2人の職員が協力にあたった。

(復興道路三陸道)多賀城市山王遺跡・市川橋遺跡
(JR常磐線移設)山元町熊の作遺跡・雷神遺跡・山ノ上遺跡・新中永産遺跡
(復興道路・都市計画道路泉・塩釜線4車線化事業)多賀城市山王遺跡八幡～町地区

(参考資料) 第8-12表

平成25年度東北歴史博物館入館者数

月区分	開館日数	入館者数(人)
4月	25	6,716
5月	27	18,719
6月	26	19,640
7月	26	9,056
8月	27	11,364
9月	25	11,399
10月	27	15,909
11月	26	8,904
12月	24	7,532
1月	23	8,127
2月	14	5,726
3月	26	5,094
計	296	128,186

第3節 宮城県多賀城跡調査研究所

多賀城跡は奈良・平安時代に陸奥国の国府が置かれ、奈良時代には鎮守府も併置された役所の跡である。規模は約900m四方で、多賀城市市川のほぼ全域と浮島の一部に及ぶ。また、南東約1.2kmの多賀城市高崎には付属寺院の多賀城廃寺跡がある。これらは大正11年に史跡に指定され、さらに昭和41年には特別史跡に昇格指定された。昭和30年代後半からの急激な諸開発の波は多賀城跡の周辺にも及び、平城宮跡や大宰府跡と並んで国の三大史跡とされる重要な文化遺産である多賀城跡も破壊されてしまう恐れが生じてきた。そこで、宮城県教育委員会は昭和44年4月に宮城県多賀城跡調査研究所を設置し、多賀城跡の解明と保存を目的とする発掘調査、およびその成果に基づく環境整備を計画的に実施することにした。

1 事業内容と目的

当研究所の事業内容と目的は以下のとおりである。

(1) 多賀城跡発掘調査事業

特別史跡多賀城跡附寺跡の発掘調査を実施し、古代の多賀城の実態を解明し、あわせて環境整備のための資料を得る。

(2) 多賀城跡環境整備事業

発掘調査の成果をもとに多賀城跡附寺跡の遺構について、保存措置を講じるとともに、復元表示などの環境整備を行い、歴史公園として一般に公開する。

(3) 多賀城関連遺跡発掘調査事業

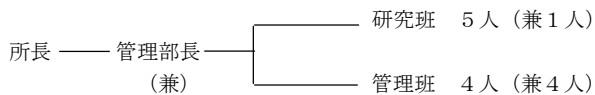
古代の多賀城に関連する県内の遺跡の発掘調査を実施して、多賀城を中心に展開された東北の古代史を多角的に解明する。

(4) 遺構調査研究事業

古代城柵官衙遺跡の資料を全国規模で収集し調査研究する。

2 組織・予算

(1) 組織



なお、当研究所では第8-13表の学識経験者からなる多賀城跡調査研究委員会を組織し、その指導・助言を得ながら各事業の推進を図っている。

第8-13表 多賀城跡調査研究委員会委員名簿

氏名	職	専門分野
委員長 須藤 隆	東北大学名誉教授	考古学
副委員長 佐藤 信	東京大学大学院教授	古代史学
委員 飯淵 康一	宮城学院女子大学教授	建築史学
〃 鈴木 三男	東北大学大学院名誉教授	植物学
〃 小野 健吉	奈良文化財研究所副所長	庭園史学
〃 松村 恵司	奈良文化財研究所長	考古学
〃 櫻井 一弥	東北学院大学准教授	建築 デザイン学
〃 進士五十八	東京農業大学名誉教授	造園学
〃 熊谷公男	東北学院大学教授	古代史学

(2) 予算

ア 多賀城跡発掘調査事業費	10,200千円
イ 多賀城跡環境整備事業費	7,550千円
ウ 多賀城関連遺跡発掘調査事業費	0千円
(以上、50%国庫補助事業)	
エ 多賀城跡環境整備災害復旧事業	6,720千円
(70%国庫補助事業)	
オ 遺構調査研究費	103千円
カ 収蔵庫整理事業	1,235千円
キ 発掘資料デジタル化事業	709千円
ク 出土遺物修復事業	1,592千円
ケ 管理費	236千円

3 平成25年度事業の概要

(1) 多賀城跡発掘調査事業

平成25年度は多賀城跡発掘調査第9次5カ年計画の最終年次にあたり、坂下地区で第86次調査を行った。調査面積は約350㎡、調査期間は平成25年5月27日～平成25年11月20日である。

調査は多賀城創建期の南辺の区画施設の構造と規模を捉えるとともに湿地部分の遺構・遺物の状況を把握する目的で実施した。その結果、区画施設については材木堀とその土台となる基礎地業を検出した。材木堀は直径約20cmの多数の丸材を密着させて立て並べた堀で、湿地部を東西に伸びる帯状の幅約6m、高さ約1mの土台の上に構築されている。長さは従来の成果と合わせて430m以上に及ぶ大規模な施設であることが明らかになった。

また、材木堀は根元から切り倒されて廃絶しており、その後は土台の部分が湿地部を横断する通路として使われたことが判明した。さらに、その廃絶後は周りを含めて畑地や水田に利用された時もあるが、比較的長く湿地環境が続いており、周囲には木製品や種子などの自然遺物が良好に遺存することが捉えられた。

(2) 多賀城跡環境整備事業

平成25年度は第9次5カ年計画の4年次目にあたり、政庁地区再整備の一環として、来年度に実施する北殿跡の遺構平面表示のための基盤整備・修景整備工事を行った。基盤整備としては盛土工により北殿跡周辺の敷地造成をするとともに排水施設として盛土内に暗渠を敷設した。また、北殿跡を通して政庁内に入る砂利舗装による園路を整備した。修景整備としては北殿跡内にある2基の石碑を移設するとともに敷地造成に伴う盛土の法面に張芝を行った。

(3) 多賀城関連遺跡発掘調査事業

東日本大震災による県内の復旧事業を優先するため、当面は事業を休止している。

(4) 多賀城跡環境整備災害復旧事業

東日本大震災により被災した政庁南門跡の再舗装工事を実施した。また、史跡内の測量用基準点の座標値の再測量を行った。

(5) 遺構調査研究事業

奈良文化財研究所で行われた古代官衙・集落研究会に出席し、日本各地の官衙における長舎構造の建物と官衙の建物配置に関する資料を収集した。また、県内では大崎市権現山遺跡、亘理町三十三間堂官衙遺跡、山元町熊の作遺跡の近年の調査データを収集・検討した。

(6) 収蔵庫整理事業

これまで多賀城跡調査研究所が実施してきた多賀城跡及び関連遺跡の発掘により出土した遺物は、整理箱で総数20,000箱を超えている。緊急雇用創出事業の一環で、それらを収納している浮島収蔵庫内の整理作業を行った。

(7) 発掘資料デジタル化事業

多賀城跡調査研究所がこれまで実施してきた多賀城跡及び関連

遺跡の発掘調査で作成した図面類を、緊急雇用創出事業を利用してデジタル化する作業を行った。

(8) 出土遺物修復事業

東日本大震災で被災した収蔵庫内の出土遺物について緊急雇用創出事業を利用して修復作業を実施した。

(9) 特別史跡多賀城跡附寺跡の現状変更申請への対応

当研究所では、特別史跡内の遺構と歴史的景観の保護に努めているが、やむなく特別史跡内の現状を変更するにあたっては、申請者及び関係機関と遺跡保護のために慎重な協議を行い、遺跡に影響がない範囲で最小限の現状変更に伴う調査を行っている。

平成25年度の現状変更申請は、石碑移設工事、電柱移設工事、下水道汚水管敷設工事の3件があり、これらは史跡の環境整備、史跡内における生活上の必要性からやむをえないものである。工事の対象面積も小さく、史跡への影響も軽微と判断されたが、石碑移設工事と下水道汚水管敷設工事は政庁跡に近い場所で行われることから遺構の確認調査を実施し、電柱移設工事については工事立ち合いにより対応した。

(10) その他

ア 震災復旧事業に伴う発掘調査の支援

県内各地域の早期復興を目指して災害復旧事業に伴う発掘調査の支援に職員1名を常時派遣した。

イ 現地説明会の開催

発掘調査の成果を一般の方々に公開するために、下記の現地説明会を開催した。

多賀城跡第86次調査現地説明会 平成25年10月26日
吉野 武・高橋 透

ウ 各委員会などへの協力

笠原信男 多賀城市文化財保護委員会委員
史跡伊治城跡調査整備指導委員会委員
亙理町三十三間堂官衙遺跡調査検討委員会委員
角田市角田郡山遺跡発掘調査指導委員会委員
第39回古代城柵官衙遺跡検討会代表世話人
秋田県弘田柵跡保存管理計画策定指導委員
秋田市秋田城跡環境整備指導委員会委員
盛岡市志波城跡史跡整備委員会委員

エ 講演会・研究会への協力・執筆など

高橋 透「多賀城跡第85次調査」
平成24年度多賀城市遺跡調査報告会
多賀城市文化センター 平成25年7月20日
吉野 武「宮城・多賀城跡」『木簡研究』第36号
平成25年11月25日
高橋 透「多賀城跡第86次調査（坂下地区）の概要」
平成25年度宮城県遺跡調査成果発表会
東北歴史博物館 平成25年12月7日
高橋 透「多賀城跡第86次調査（坂下地区）の概要」
第40回古代城柵官衙遺跡検討会成果報告
山形国際ホテル 平成26年2月22日
吉野 武「陸奥の城柵と交通・交流」
第40回古代城柵官衙遺跡検討会特集報告
山形国際ホテル 平成26年2月23日
吉野 武「多賀城跡の近年の調査」
第30回条里制・古代都市研究会大会
奈良文化財研究所 平成26年3月2日

オ 連携大学院

笠原信男（客員教授）

文化財科学研究演習Ⅰ「多賀城跡の研究の現状と整備」

笠原信男（客員教授）・吉野 武（客員准教授）

文化財科学研究実習Ⅰ「古代遺跡調査の方法と実践」

カ 研究成果刊行物

『宮城県多賀城跡調査研究所年報2013 多賀城跡』

平成26年3月

『宮城県多賀城跡調査研究所資料Ⅳ 多賀城跡木簡Ⅲ』

平成26年3月